１５年度「ＮＩＥで磨く国語力」№１７

年　組　番　氏名

言葉の人なのだろう。始めて①マンザイ（漫才　）のネタのようなものを作ったのは小学校に入る前だった。小学生になるとネタ帳をいつも持ち歩き、何か思いついては書き留めていたという。お笑コンビ「ピース」の又吉直樹さんが『第２図書係補佐』で書いている▼内省の人でもある。ネタ帳とは別に青春の②懊悩（おうのう）を書き込む大切なノートがあった。「僕の生活のリズムは（１）溜息と（２）舌打ちによってのみ出来ている」１０代の頃に書いたこの言葉を後に読み返し、あまりの（３）暗さに驚いたそうだ▼③チクセキ（蓄積　）された言葉の力、内省の力が芥川賞受賞作「火花」に④ケツジツ（結実　）した。２人の若い芸人が笑いを追求する愚かしくも⑤真摯（しんし）な日々。とりわけ主人公が師と仰ぐ神谷は、「（４）人と違うことをせなあかん」と⑥キコウ（奇行　）を重ねる。その「⑦畢生（ひっせい）のあほんだら」ぶりが⑧シゲキ（刺激　）的だ▼泣く赤ん坊を公園で見かけ、神谷は妙な川柳を聞かせて笑わそうとする。主人公は普通に「いないいないばあ」であやす。自分の流儀を愚直に貫くか、伝わることを優先して相手次第で変えるのか。（５）この違いが後の２人の進路を分ける▼文章にはてらいがなく、静けささえ感じる。題材が題材だから、笑いのポイントも⑨ズイショ（随所　）に埋まっている。その混ざり合いが不思議な小説世界を形づくり、味わいが深い▼少し前の又吉さんの著書にこうある。ものづくりに触れ、「大人が死に物狂いになって血だらけで作った品にしか⑩ゼニ（銭　）を払う気がしない」。又吉さんが笑いに、そして文学に向き合う時の姿勢でもあろう。

〔２０１５年７月１８日「天声人語」〕

問一　①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを答えなさい。

問二　傍線部（１）「溜息」はどんなときに出る息なのか３０字程度で答えよう。
〔答例〕（失望したり自分ではとてもできないと思ったりしたときに出る息。）

問三　傍線部（２）「舌打ち」はどんなときの動作か、３０字程度で答えよう。
〔答例〕（自分の思い通りにいかず不愉快なときや、くやしがるときの動作。）

問四　傍線部（３）の「暗さ」と、同意味の用例の記号に〇を付けよう。

ア　暗い日曜日　　イ　数字に暗い　　ウ　暗いところがある
㋓　いつも暗い顔をしている　　オ　暗い政治

問五　傍線部（４）とあるが、６月２６日「折々のことば」には、「人と違うことをして目立つのは誰でもできる。人と同じことをして秀でなさい」が紹介されている。「誰にでもできる人と同じこと」の例を示し、秀でるコツを考えよう。
〔答例〕（あいさつ。ＴＰＯをわきまえ、声の大きさや礼などを工夫すること。）

問六　傍線部（５）とある。進路が開けたのはどちらか、理由とともに予想しよう。
〔答例〕（主人公。相手次第の伝える工夫・アドリブは芸に不可欠だから。）

問七　７月１９日朝日社説「又吉氏芥川賞　文学に親しむ入口に」を読み、そこに紹介されている「小説の力」を句読点も含め１０１字で抜き出そう。
（古今東西の小説には、おびただしい数の先人が向き合ってきた悩み、悲しみ、喜びなどが詰まっている。それに触れることで、登場人物への共感を通じて自分自身を肯定したり、困難を乗り越える知恵や勇気を得たりすること）